

事業計画書

事業名	八ヶ崎の森再生整備事業（継続）
団体名	松戸里やま応援団 一起の会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

H22年度市民活動助成事業指定を受け本事業を推進していますが、2年ほど前八ヶ崎の森の大部分の斜面林が伐採されてしまった背景には、森が地域から孤立し、日影・落ち葉飛来・景観上のマイナス面だけが浮き彫りになったことがあり、解決策として伐採されることとなってしまいました。どの程度伐採するのか、伐採後どうするのか「市街地の貴重な森を残しつつ、地域の要望にも応える解決策」は無かったのか。H16年からこの森の整備管理を担ってきた私達一起の会への事前連絡はなく、この森に関わる地域住民・地権者・行政と私達ボランティアの間のコミュニケーションギャップが森の多大な破壊の一因と考える。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

孤立した森から、関係者の理解と協力を得られかつ地域住民に受け入れられ地域に根付く森へ再生すること。八ヶ崎の森全体は、針葉樹中心に若干暗い森のイメージがあったが、伐採された斜面の再生には花の咲く樹木を植栽し、明るく公園的な雰囲気ゾーンにすることで地域に身近な森にしたい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

H22年度より本件再生整備事業に取り組んでおり、伐採された斜面を整備し上中下の三層に分け、下層に向けて中低木の花の咲く樹種を植樹し、下段には遊歩道を設置する。
植樹は地域住民参加型のイベントとして実施してきており、本年度も数回植樹祭を計画するとともに、月2回の定例活動にも参加してもらい、地域の方々が誇れる森づくりを進める。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	遊歩道設置 土留め柵防腐杭の補強	斜面下段を中心に、境界杭とロープを設置 現土留め杭が腐蝕してきたので防腐杭補強
7月～9月	第3回植樹祭	斜面中間部分の植樹、戸建て住宅隣接部分で、園芸種花木も混ぜ、圧迫感・違和感をなくす
10月～12月	森の散策・音楽会イベント	近隣住民や児童を招き、森を開放し楽しんでもらう
1月～3月	第4回植樹祭	斜面南東部分の植樹、地権者調整が残っているが、住宅隣接帯(下段)への植樹と遊歩道設置

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- 1) 土留め柵の崩壊防止のため、防腐処理杭で補強
- 2) 斜面を三層に分け、中低木中心の植栽を完了
- 3) 下層をめぐる遊歩道の設置

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

破壊された森を、地域に根付く森に再生する活動で植樹や定例活動に参加してもらうことで、地域の方々に身近な森に出来ると考える。

森を維持する上での課題を、地権者だけでなく地域住民、行政とボランティアが連携して取り組んでいけるよう、森でのイベント活動参加への呼びかけを継続する。

また、定例活動を通して地域と地権者、行政とのパイプ役を果たしていきたい。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	繰越金	40,000円	繰越金、物品販売等からの充当 1,500/年×20人
年会費	30,000円		
	自己資金合計 (a)	70,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	170,000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
		苗木・幼木購入	50,000円
	土留め柵の補強	45,500円	防腐杭1.5m*70本
	植樹祭ほかイベント経費	30,000円	チラシ5 飲み物3 機器賃借他
	遊歩道設置用杭、ロープ購入	30,000円	杭100本ロープ200m
	機器賃借料	15,000円	フェンダー、発電機、刈払い機他
	対象となる経費合計額 (d)	170,000円	
その他		円	
		円	
	その他経費合計額 (e)	0円	
	事業費 (f) (d+e)	170,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	紙敷石みやの森 保全育成事業
団体名	松戸里やま応援団「七喜の会」

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

【課題】

古来、人間の生活圏には樹林と田畑を中心とした里山があり農業や林業により食と住居、薪の採取など密接な関わりを持ってきた。現在これらの貴重な樹林が地域から減少している。
保全育成により衰退を食い止める必要がある。

【現状】

- a. 松戸市は北総台地の中にあり豊かな緑に溢れていたが、1988年35.6%だった緑被率も2005年には30.6%と減少してきた。(緑被率=樹木・草花・水・土・空など広義の概念)
- b. 市も緑の基本計画を策定して緑被率減少に歯止めをかけるべく様々な取り組みをしている。
- c. 私たち七喜の会は、里やま応援団7期生として多くの先輩応援団の指導の下に「紙敷石みやの森」を拠点に保全活動を推進している。
- d. この森は紙敷2丁目に位置し北総鉄道沿いにある。市立松戸高校、日本園芸生産研究所、県水道局給水場、八柱霊園などに隣接し有料老人ホーム、テニスコート、少年野球グラウンド、新興住宅やマンションなど幼若壮者の世代が集まる市街地の中にある。
- e. 森の面積は約1ha(1万㎡)あり、往時この一帯が馬の放牧場であったことを伺わせる野馬土手が築かれ、全体が起伏に富み低地では水田跡地と思わせる場所もある。また会名称の由来となった延宝四年(1676年)建立の石の祠が中央に祭られこの森が永く生活を支えてきた貴重なものであることが推察できる。
- f. 近年は手入れも行き届かず、樹林内には枯死木や折損木、倒木が放置され中低木の枝が繁って陽差しを遮り森の自然再生を妨げている。
- g. 周囲には市道があり市民の散歩道にもなっているが、荒れた森特有の問題としてゴミの不法投棄(有害物質などによる地中汚染も心配)や無断立ち入り、伐採など犯罪の温床化を招くものと市民の人達の悩みになっている。

【背景】

- a. 高度経済成長と共に都市化が進み樹林や田畑が宅地や工場用地に変わってきた。
- b. 少子化と高齢化及び社会生活の変化に伴い、森が生活に直接果たす役割が後退し合わせて資産価値の低下と樹林地主の後裔者不足がある。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- a. この森の周辺も宅地化が進み緑のエリアは年々狭まっている。前述の様に周囲を取り囲む学校や霊園、園芸生産研究所、水道給水場などは「緑の環境と非宅地地区」を条件に設置されたと考えられる。
- b. 鉄道の開通、駅の設置により住環境が整ったこの地域の中であって、この森は近隣市民の健康

と癒しをもたらす貴重な市民共有の財産として活用されるべきと考えている。

- c. 日本の里山の原風景をイメージしながら、持ち出さず持ち込まずの基本理念のもとに草花や水溜りに生きる昆虫、ウサギやリスが巣営し、栗や椎の実が茂り、椎茸が生える森に再生して幼児を抱えたお母さん、少青年、働きざかりのお父さん、車椅子のお年寄りなど幅広い年齢層が安心して憩い交流できる市民の森にしたい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

【活動内容】

※平成23年後半から市民が利用できる様に整備と準備を進める。(段階的に開放していく)

森の保全活動は凡そ次の様な課題解決につながる。

- a. 適正な樹木の剪定伐採などにより、延び過ぎた枝葉による街路灯電線などへの接触、朽ちた樹木の折損による通行者への落下、落葉による住宅区域への散乱などを防止する。
- b. 有害ゴミ等の不法投棄による森や地質の汚染防止をはじめ、不審者の侵入による犯罪の温床化、火災など不測の災害防止を図る。
- c. 定例活動の実施
- ・毎月第一火曜日、第二木曜日、第三土曜日を定例活動日とし月三回実施する。また必要に応じて臨時活動日を設定する。
- d. 具体的活動
- ・22年度に策定する森の利用目的および目標林型に基づいた整備作業を実施する。
 - ・樹木の植生調査、草本調査、植生図の作成。小動物の生態調査観察などを行う。
 - ・枯れ死木、折損木、倒木などの整理、下枝処理、下草処理など。これらは全てバイオネストを設けて堆肥化、カブトムシやカミキリなどの昆虫孵化、家庭菜園などへ有機肥料として市民へ還元する。
 - ・投棄ゴミの回収、分別、市の回収車手配と運搬。投棄禁止の啓蒙掲字板を設置する。
 - ・会員の知識、技能のレベルアップを図るため技能講習会、観察会などに参加する。
 - ・保全活動を広く市民に知ってもらうために案内板を作成して森の入口に設置する。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備作業（枯死木、折損木、倒木、下草などの整理及び歩道整備） ・植生調査、植生図作成と補正、昆虫及び小動物観察調査とまとめ ・投棄ゴミ回収分別（6月） ・道工具収納庫の製作設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施（臨時あり） ・運用、作業、調査の担当班別に作業内容をスケジュール化。（紙敷石みやの森） ・他の里やま応援団活動エリア。
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備作業（枯死木、折損木、倒木、下草などの整理及び歩道整備） ・植生調査、植生図作成と補正、昆虫及び小動物観察調査とまとめ ・巣箱（フクロウ）の作成設置 ・作業道具取り扱い実技熟練化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施（臨時あり） ・チェーンソー、草刈り機などの電動工具の取り扱い講座参加。（代表参加）
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備作業（枯死木、折損木、倒木、下草などの整理及び歩道整備） ・植生調査、植生図作成と補正、昆虫及び小動物観察調査とまとめ ・投棄ゴミ回収分別（12月） ・案内標識作成設置（散策会準備） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施（臨時あり） ・里やま応援団、里山プロジェクト等が主催する講座へ参加。
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・整備作業（枯死木、折損木、倒木、下草などの整理及び歩道整備） ・植生調査、植生図作成と補正、昆虫及び小動物観察調査とまとめ ・春休み森の散策会（仮称）開催 老人ホーム、少年野球チーム、ご近所の方との交流。 ・知識技能のステップアップ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例活動日に実施（臨時あり） ・森の散策会開催のお知らせチラシ作成、松飛台駅などで地域住民へ配布し呼び掛け。 ・他の里やま応援団へ協力要請。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください。

*活動目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- 森の整備率を50%達成する。2年目（24年度）75%、3年目（25年度）100%
- 24年3月初めての市民参加イベント「春休み森の散策会」を開催する。
- 一緒に作業してくれるサポーターを一人でも増やし、自分たちの森としての保全活動の理解と協力を求める。（現在千葉大生が特別参加）
- そのため毎月3回（第一火曜日・第二木曜日・第四土曜日）の作業を定例実施し、活動の進捗状況（グラフ等で表示）、活動の実際（活動報告書など）を掲示板などで地域市民へ紹介する。
- 森周辺の美観整備とゴミゼロ活動を継続して行い、24年度「ゴミ投棄ゼロ」を達成する。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- a. 「石みや様の森がある街・紙敷」をキャッチフレーズに、300年余の歴史的市民財産として保全するため、リーフレットなどで広報活動を行い地域市民の関心と理解を深める。
- b. 助成金により一部の道工具および収納庫を購入の予定であるが、樹齢100年近い大木の整備は人の力では太刀打ち出来ない。倒木切削のチェーンソー、大木処理用ウィンチ、ロープ、掛矢、下草刈り機など逐次準備して本格的な活動を展開していく。(ヘルメット、鎌、鋸、鋏などは個人で購入)
- c. 森を守るためには一定サイクルでの伐採、下草刈り、枝落としなどの手入れが必要。年間を通しての保全活動を行い、散策会や観察会の定例化を図る。
- d. 動物や昆虫などの観察エリア及び傾斜の強い場所に手摺りや階段を取り付け市民利用の安全を図る。安心して散策できる森を保全活動の目標とし、将来は車椅子生活など弱者と言われる人の散策も可能な森に整備する。
- e. 市の協働推進課、みどりと花の課や里やま応援団と協力して、次の世代へ引き継ぐサポーターを育てる。
- f. 森の再生には永い時間を要する。また高枝の間伐、老化した大木の伐採作業など高い技能を要する。技能講習会への参加、先輩の里やま応援団等の指導支援を受け技能の熟練度を向上させる。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	前年度繰越金及び会費	24,002 円	前年度繰越金 7,002 円 年会費 1,000 円×17名=17,000 円
	自己資金合計 (a)	24,002 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	124,002 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	作業用具費 等	61,000 円	剪定バサミ (大) 1 8,000 円 掛矢 (大) 1 4,100 円 鎌 3 7,500 円 スコップ (大) 1 5,000 円 用具収納庫 1 31,000 円 測量用具 1 5,400 円
散策会開催広報活動費 消耗品・事務用品費	55,000 円	イベント開催チラシ・ポスター等 製作及び飲料費 20,000 円 カーインク/用紙 等 20,000 円 テープ・紐他 文具費 5,000 円 活動案内掲示板製作 10,000 円	
	対象となる経費合計額 (d)	116,000 円	
その他	通信・会議・資料補助費	6,000 円	500 円/年×4名=2,000 円 (通信) 500 円/回×4回=2,000 円 (会議) 2000 円/年×1名=2,000 円 (資料)
	飲料水補助費他	2,002 円	
	その他経費合計額 (e)	8,002 円	
	事業費 (f) (d+e)	124,002 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にしてください。

事業計画書

事業名	五香・六実地区歴史再発見と地域活性化
団体名	香実会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

五香・六実地域は江戸時代小金牧でした。明治時代に入り5番目、6番目に入植され、歴史のある地域です。然しながら昨今では、五香・六実地域の商店街は廃業等でシャッターが閉まっている所が散見され、活気も失われている様に思います。また、新興地特有の住民の地域意識が脆弱で、活性化等への取り組みや関心度も低く元気が無い様に感じます。

一方、松戸駅方面から比べると、五香・六実地区は中心から離れていて、文化財や観光資源も取り残され、PR活動も遅れています。

今後は、地域住民の手で自らPRを行い、知らない地域住民（新興住民含む）の人達に周知します。そして、地域住民の意識を高めて活性化を図り、元気のある街にしたい所存です。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

江戸時代や明治時代の五香・六実地域に埋もれた文化財等の再発見を行います。その調査した文化財を地域内外にPRします。地域の皆さんの愛着心や理解力を深めると共に、内外の観光客が大勢見学に来られる様な、活気のある地域にしたいと思っています。

地域の連合町会、社会福祉協議会、老人会とのコミュニケーション、又松戸博物館と連携をとりながら、五香・六実地域の活性化を図り、明るい街、魅力ある街にしたいと望んでいます。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

地域住民とのワークショップを行い、見過ごしている地域観光資源の掘り起こしを行います。文化財の案内マップ、カラーガイドブックの資料作成後、チラシ（案内マップ）を各駅（五香駅、六実駅、元山駅）に配置、又は駅前配布して地域観光ルートの紹介を行います。

広報松戸、地域新聞などに掲載してPRを行う。HPも立ち上げる。皆さんに周知する事で電車の利用者も増え集客力もアップ、街の活気にも繋がります。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	歴史文化財のマップ、ガイドブック資料の作成準備。連合町会、老人会、地域の有力者や住民とのワークショップ実施。専門家の博物館との連携。	地域の有力者、住民への説明 連合町会、老人会にも働き掛ける 博物館と相談（博物館友の会に依頼）
7月～9月	歴史文化財のマップ、ガイドブック印刷。新人スタッフの募集。各駅に協力依頼	マップ（1000部）作成 案内書（カラー写真、文章）500部作成 講習会の説明書類作成、各駅にも相談する
10月～12月	歴史文化財マップの配布 ガイドの実施。新人スタッフ研修会	各駅（五香、六実、元山）配置と駅前配布 新人の現地研修会
1月～3月	ガイドの実施。スキルアップ研修会。来期の準備	新人スキルアップ（松戸市のガイドに依頼） 決算書類準備

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

23年 4月～6月までに歴史文化財、マップ、ガイド案内書の準備。

// 地域の有力者、連合町会、老人会、地域の住民とワークショップの
// 実施。専門家の博物館との連携。(説明と相談)

23年 7月～9月までに歴史文化財のマップを印刷する。(1000部作成)

// 歴史文化財の案内説明書を印刷する。(500部作成)
// 各駅(五香駅、六実駅、元山駅)に協力依頼
// 新人スタッフの募集と研修会

23年10月～12月に歴史文化財のマップと案内説明書を配布する。
ガイド活動開始(新人ガイド研修会)

24年 1月～3月にガイド活動の実施

// 新人研修会(新人ガイドスキルアップ)
// 来期の決算準備

●下記はガイド活動等時の配布予定部数です。

マップ： 150部配布× 3回=450部(駅などで配布) 残りは予備

マップ：毎月40部配布×12カ月=480部(ガイドの時に配布) 残りは予備

案内書：毎月40部配布×12カ月=480部(ガイドの時に配布) 残りは予備

☆毎月の案内目標 40名×12カ月=480名(ガイドの時に配布) 残りは予備

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・五香・六実地域の歴史再発見と地域活性化の主旨に賛同者とのネットワークを広げる。
- ・スタッフの増員と新人の研修と教育を行います。
- ・各駅(五香駅、六実駅、元山駅)にも協力して頂くよう働きかけを行います。
- ・チラシを各駅(五香駅、六実駅、元山駅)に配置、又は駅前で配布します。(人海作戦)
- ・ガイドツアーを実施して、内外の多くの市民に呼び掛け、参加を募ります。
- ・イベント、企画などに基づき宣伝活動を実施します。
- ・地元の小、中学校の社会科の歴史見学の場として、学校に働きかけます。
- ・地域住民に「五香・六実地域の文化財再発見」の講演会を行います。
- ・文化的遺産の保存管理に関して、地権者と行政に働きかけ、保存に努力したいと思います。
- ・活動資金は会費と寄付金(広告)で補います。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
	申請者	前期繰越金	3000円
年会費		10000円	@1000×10名
自己資金合計 (a)		13000円	
市	助成金申請額 (b)	100000円	
収入合計 (c) (a+b)		113000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	マップ印刷費	10000円	1000部×10円
	カラーガイドブック印刷費	90000円	500部×180円
	ワークショップ費	7000円	事務用品、案内資料など
	会場使用料	5000円	会議、研修など
	対象となる経費合計額 (d)	112000円	
その他	スタッフ交通費	1000円	
	その他経費合計額 (e)	1000円	
事業費 (f) (d+e)		113000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にしてください。

事業計画書

事業名	不登校の理解を深める本の作成と配布
団体名	不登校問題を考える東葛の会『ひだまり』

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。
 - ・松戸市内の中学校1クラスに1名不登校の子どもがいる割合。多くの子どもが「学校に行きたいのに行けない」事で苦しみ、その親も苦しんでいる。また、学校に行っても悩みを抱えている子どもは多い。
 - ・子どもの苦しみを理解し、子どもの声に耳を傾ける事が大切だが、それを抜きに親や先生から無理に学校に行かされ、精神的に追い詰められ、回復に時間がかかるケースが実に多い。
 - ・『不登校の子どもが元気になって行く筋道』を学校・親・地域に広めたい。

○ 2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- ・孤立してしまうのではなく、人と人がつながりあえる地域に。
- ・悩み・苦しんでいる時、どこに相談に行ったり、つながって行くと良いかわかる地域に。
- ・子どもや親の悩みにじっくり耳を傾ける、学校・地域に。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

- ・不登校体験をした子どもや親の体験記を本にまとめ、学校・PTA・相談機関・地域に配布、広め、読んでもらい、『元気になって行く筋道』の理解を広める。
- ・出版記念講演会を計画し、参加してもらいながら、相談機関や親の会などにつながって行けるようにする。

○ ・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	本の編集会議、計画づくり。 交流会・講演会を行い、会員・市民の声を聴く。 原稿を募集する。	会員や市民、行政・相談機関などに本を出版する意義を訴えながら、交流する。 編集会議参加・原稿依頼など訴える。
7月～9月	原稿を検討する。 割り付けやカット、装丁等を検討する。	執筆者と話し合い、原稿の内容検討し、加除修正をおこなう。 A5判、80ページを想定。 編集会議で知恵を集める。

10月～12月	印刷所に発注する。3週間で完成するとの事。 学校PTA・相談機関、その他に配布する。 会員を中心に購入してもらう。	1000部作成する。 配布対象を検討し、実施する。 500円×200冊＝10万円の販売を想定する。
1月～3月	出版記念講演会（事業終了後の6月実施予定）の内容検討。 事業報告書を作成する。	マスコミ・ミニコミにもこの取り組みを紹介してもらい、広める。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- ・『不登校体験をした子どもや親の体験記』を1000部作成する。
（A5判、80ページ、原稿執筆者子ども・親10人～15人を想定）
- ・行政・学校・相談機関（市教育研究所、千葉県親と子のサポートセンター、健康福祉センターなど）と交流しながら、本の構成・内容等検討する。
- ・講演会・交流会を開きながら、どんな内容の本にするか、検討し合っていく。
- ・そのうち500部を学校（職員用図書・長欠担当・養護教諭等）、PTA、社会福祉協議会、大学、相談機関、ボランティア団体などに寄贈し、趣旨を理解してもらい、読んでもらうようにする。
- ・会員や東葛の会交流会（親たちの会）参加者に趣旨を訴え、この本を購入してもらい、会財政からの出資分を確保する（500円×200部＝100,000円）
- ・残部300部は、その後の希望者に渡す事が出来るようにする。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・平成24年6月（助成金終了後）に、出版記念講演会を開き、不登校で悩んでいる親たちをふくめ、学び合い、つながりをつくる活動をおこなう。
- ・東葛の会・子どもの居場所『ひだまり』の活動を紹介したり、千葉県子どもと親のサポートセンターをはじめ他の相談機関なども紹介して行く。
- ・大学の研究室、学校の先生、スクールカウンセラーや養護教諭などとも連絡・つながりが広がるようにして行く。
- ・子どもの居場所『ひだまり』を財政的に支える『ひだまり賛助会員』を50名にまで増やしていく。（現在20名くらい）
- ・その次には、どんな内容の本や小冊子を発行する事が出来るか、検討して行く。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	本の販売収入	100,000円	500円×200冊=10万円
	自己資金合計(a)	100,000円	
市	助成金申請額(b)	100,000円	
	収入合計(c)(a+b)	200,000円	✓

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	本の印刷製本費	150,000円	本の印刷製本
	通信費	20,000円	募集のお知らせ、本の送付
	消耗品費	20,000円	パソコンインク、封筒、紙
	対象となる経費合計額(d)	190,000円	✓
その他	スタッフ飲食費	5,000円	
	スタッフ交通費	5,000円	
	その他経費合計額(e)	10,000円	✓
	事業費(f)(d+e)	200,000円	✓

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にしてください。

事業計画書

事業名	誤訳原因で有罪が確定している者の救済活動
団体名	外国人サポートセンター

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

国際交流の活発化や外国人労働者の増加に伴って、日本語の分からない外国人が被告人となる事件が増加しています。その件数は、平成元年以降増えており、平成20年は平成元年の約7倍の件数がありました。また平成20年に全国の地方裁判所や簡易裁判所で判決を受けた被告人78,276人のうち、通訳人が付いた外国人被告人は4,511人で、おおよそ17人に1人の割合となっています。国籍数は平成元年に35か国だったものが平成20年には70か国に増えています。

(参考：最高裁判所ホームページ)

日本では法定通訳資格制度が無い為自己申告によって誰でも法定通訳人になれるような仕組みであり、誤訳事件が存在しています。

誤訳事件やそれらを原因とする冤罪事件が、どの裁判所でも行われているという専門家もおり、私達もそのように感じております。特に成田空港を管轄する事もあって、国内で外国人事件が最も多いのは松戸市も管轄とする千葉地方裁判所であります。

最近増え続けている誤訳事件に対し松戸市に住んでいる外国人が不安を感じているのも事実であります。このような状況下で誤訳事件の調査研究を行い、事実を明らかにし、叱るべき対応を取ることで外国人の人権を守り、今後の司法制度改革にも繋がり、外国人でも安心して暮らせる松戸市になることを期待し、問題解決に向けて動力していきたいと思っております。

■参考事例1 「裁判員裁判の誤訳、差し戻しを要求／大阪高裁」

(2010年9月22日産経新聞) 覚せい剤取締法違反(営利目的輸入)などの罪に問われ、1審大阪地裁の裁判員裁判で懲役9年、罰金350万円の判決を受けたドイツ国籍のエステティシャン、ガルスパハ・ベニース被告(54)の控訴審第4回公判が22日、大阪高裁(湯川哲嗣裁判長)で開かれた。弁護側は「正確に通訳されなかった」と主張、1審判決を破棄して地裁に差し戻し、能力のある通訳人で裁判員裁判をやりなおすよう求めて結審した。判決は10月22日。

弁護側は最終弁論で、湯川裁判長が1審の裁判員裁判を録画したDVDを証拠として採用しなかったことを「誤訳を重ねる様子を証拠にせず、見るべきものを見なかった」と批判。その上で「誤訳で1審の裁判員と裁判官は、被告を信用できない気持ちを強くした可能性が高い。新しい形の『誤訳冤罪』を生み出してはならない」と訴えた。

■参考事例2 メルボルン事件

豪メルボルンの空港で1992年6月17日、日本人7人のツアー客のうち4人のスーツケースから合計役3キロのヘロインが発見され、ツアーリーダーを含む5人が麻薬密輸容疑で現行犯逮捕された。5人は「途中で寄ったマレーシアのクアラルンプールで、現地ガイドに「荷物を盗まれた」と言われ、代わりにこのスーツケースを渡された。麻薬の存在は全く知らなかった」と一貫して無罪を主張したが、裁判では認められず、ツアーリーダーは懲役20年、他4人に懲役15年の罪が確定した。

98年、大阪の弁護士らでつくる弁護団が、尋問や裁判・弁護士との打ち合わせで、適切な通訳が付けられなかったことなどを理由として、豪政府を相手取り、国連の自由権規約委員会に個人通報して救済を求めた。2002年、4人が仮釈放され帰国したが、ひとりはいまだ服役中であります。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

国籍に問わず市民の基本的な人権を守れるよう努め、国際交流活動を促進するとともに、諸外国との相互理解と協力関係を深め、もって世界の人々と共に生きる国際性豊かな社会の創造に寄与していきたいと思っております。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

- ① 過去3年間に遡り、千葉地方裁判所で行われた要通訳事件で誤訳が控訴理由となった事件の情報開示請求を行います。
- ② 情報分析、調査研究や法定通訳の録音テープのテープ起こし等を行い、誤訳があり、判決に影響しているような事件があった場合、必要に応じ本人との面会を行います。
- ③ 約3割以上誤訳があった場合、その鑑定を行い、確実に誤訳であり、それが判決に影響があったかどうか専門家に調べて貰い意見書を作成して貰います。
- ④ 救済の必要性がある事件に対し、法テラスや法曹関係者との協力を得ながら、裁判の差戻し等の救済措置をとります。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	東京高裁に対する情報公開請求	東京高裁、当団体事務所
7月～9月	情報分析、テープ起こし、専門家鑑定等	当団体事務所、法と言語学会、最高裁図書館
10月～12月	専門家による鑑定書や意見書作成等	当団体事務所、法と言語学会、最高裁図書館、必要とする場所において。
1月～3月	法曹関係者との相談、救済措置	弁護士会、法務局、法テラス等

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

情報開示された事件の中から最も誤訳があると思われる5件の事件を選び、その5件に対し、調査研究を行います。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

本事業で得た成果を元に今後、司法通訳資格制度の必要性を訴えて行くと共に司法制度改革を期待します。

助成金終了後に本活動に賛同した方々の協力を得ながら今後も活動を続けていきたいと思っております。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
			20,000円
	自己資金合計 (a)	20,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
収入合計 (c) (a + b)		120,000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1事業あたり 10万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
		専門家相談料等	90,000円
	事務用品・雑費	5,000円	事務用品・雑費
	委託料	20,000円	テープ起こし等
	通信費	5,000円	切手代・電話代等
	対象となる経費合計額 (d)	120,000円	
その他			
	その他経費合計額 (e)	0円	
事業費 (f) (d + e)		120,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	健康な心を育む勇気づけの対応
団体名	ファミリーサポート・勇気づけ

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。
 - ・子ども時代に受けたこころの傷はいつ表面化するかは予想出来ません。不登校、引きこもりと言ったように 比較的若い時代に表れることもあれば 成人してからうつ病を始めとする精神疾患として形を呈することもあります。「困難に出会っても乗り越えていける精神力」を育てるという目標を持った 子どもへの対応が必要です。
 - ・松戸市の小・中学生の不登校は2010年現在 500名に上っています。小・中学生の不登校の保護者が「勇気づけの対応」を学び、実践されることで 子どもの心の傷の回復を援助出来、再登校を早期化出来ます。これまでの事例では保護者の方が学び始められてから6から7ヶ月で再登校されています。これは長期化することが多いと言われている不登校生への働きかけの方法の中で著しく短いと言われています。
 - ・2009年の自殺やうつ病を原因とする経済的損失は2.7兆円と厚労省初調査が出ています。これは松戸市2009年歳入総額の21.5倍という数字です。
 - ・長期的観点に立つと 健康なこころを持った人の育成は 家庭の円満、協力的な地域の形成、市の財政、国の財政の負担軽減の一助にもなります。
2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。
 - ・「勇気づけの対応」は様々な人間関係に応用できるので 協力的な人間関係の輪がある地域
 - ・一人でも多くの不登校、引きこもりの方が再登校、社会復帰を援助できる体制がある地域
 - ・不登校、引きこもり、うつ病は「勇気づけの対応」という予防があることを育児、教育に携わる方々に関心を持って頂ける地域
3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。
 - ・事業内容
 - ・子どもの不適切な行動の目的を理解し、行動修正に効果のある「勇気づけの対応」をひとりでも多くの方に知って頂く為の講演開催

・問題を抱えたご家族に対する問題解決に向けての対応方法提示の支援活動(勇気づけの親子関係実践セミナー)

実践セミナーに来られた方から「家庭内の問題解決の糸口になる。」との多くのご報告を頂いております。

・想定スケジュール(事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・貸し出し用本購入 ・チラシ作製 ・市の関連機関にチラシ配布依頼 ・不登校、引きこもりの子どもを持つ家庭を含む子育て中の家庭への広報活動 ・1回目の講演 ・4月～6月毎月3回の講座 	講演：「勇気づけ対応」の必要性 対象：保護者(保育園・幼稚園・学校関係) 場所：松戸市女性センター・ホール 講座：「勇気づけの親子関係実践セミナー」 対象：子育て中の方、不登校のお子さんを持っておられる方 場所：新松戸ちばコープ集会室 松戸市女性センター研修室
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目の講演 ・保育園、幼稚園、小・中学校の先生向けの広報活動 ・7月、9月毎月3回の講座 	講演：「勇気づけ対応」の必要性 対象：保育園、幼稚園の団体 場所：松戸市女性センター・ホール 講座：「勇気づけの親子関係実践セミナー」 対象：子育て中の方、不登校のお子さんを持っておられる方、先生方 場所：新松戸ちばコープ集会室 松戸市女性センター研修室
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・3回目の講演 ・10月～12月毎月3回の講座 	講演：「勇気づけ対応」の必要性 対象：保護者(保育園・幼稚園・学校関係) 場所：松戸市女性センター・ホール 講座：「勇気づけの親子関係実践セミナー」 対象：子育て中の方、不登校のお子さんを持っておられる方、先生方 場所：新松戸ちばコープ集会室 松戸市女性センター研修室
1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業のまとめ ・1～3月毎月3回の講座 	講座：「勇気づけの親子関係実践セミナー」 対象：子育て中の方、不登校のお子さんを持っておられる方、先生方 場所：新松戸ちばコープ集会室 松戸市女性センター研修室

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

- ・松戸市内の関係機関（保育園 47 幼稚園 40 小学校 44 中学校 20）に「勇気づけの対応」のチラシを配布する。
- ・講演：各回 15名～20名の参加者を目標とする。
- ・講座：各回 16名前後の参加者を目標とする。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・不登校生の保護者の方が実践されると 早ければ数ヶ月で再登校されるようになる「勇気づけの対応」をより多くの方に知って頂く活動
- ・これから育児を始める妊娠中の方、乳幼児の方々に「勇気づけの対応」を知って頂く活動
- ・現在受講されているご家族、助成金の活動を通して会に来られた方々に会員になって頂き、長期的には実践セミナーを開催してサポートの輪が広がるような活動

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
		会からの支出	3 30,000円
	自己資金合計 (a)	30,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	130,000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	アドバイザーへの謝礼金	30,000円	10,000円×3回=30,000円
	チラシデザイン料	15,000円	15,000円×1件=15,000円
	チラシ印刷費 (紙代含む)	30,000円	10円×3,000枚=30,000円
	会場使用料	2,604円	868円×3=2,604円
	賃借料機材	14,100円	プロジェクターレンタル 4,700円×3回=14,100円
	活動資料等を送付するための 切手代や宅配便料	12,080円	保育園数 47 幼稚園 40 小学校 44 中学校 20 合計 151 80円×151=12,080円
	本代：貸し出し用 (対象：講演・講座の参加者)	12,000円	・「6歳まではたっぷり愛して 7歳からは見守って」 1,200円×10冊=12,000円

	対象となる経費合計額 (d)	115,784 円	
その他			
	予備費	14,216 円	
	その他経費合計額 (e)	14,216 円	
事業費 (f) (d+c)		130,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	AEDの正しい使用法を広めたい事業
団体名	デフィブリーるの会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

- ・平成 22 年 8 月現在、松戸市内に設置されている AED は「282 台」です。
- ・全国の統計では、2008 年に心肺停止の発症事例に対して、市民の手で AED が使用された件数はわずかに約 430 件で使用率は 2.1 %の低率であったと報告されています。
- ・松戸市内でも昨年心肺停止で病院に搬送された事例は 200 名ほどでしたが、その内 AED によって救急救命を施された件数は 5 件(2.5%)と 全国平均と同様に低い使用率でした。
- ・このことは松戸においても AED を知ってはいるが、使い方や馴染が無いなどで AED 救命に尻込みするなど、普通に使用される段階に至っていない状況を示していると考えられます。
- ・私達は「まず AED を手にとって」、その「正しい使い方を少しでも広める」ことに寄与したいと思います。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- 松戸市内での AED の使用件数、使用率を増やしたい。
- ・AED についての指導は一般的に救急隊に委ねられていますが、私達の会は「もっと気軽に AED に触れて慣れてもらうこと」が大切だと思っています。
- ・地域の団体、事業所、個人の集まりの方から気軽に要望をいただき、「救急救命と AED についての実習の会」を手軽に実施していくことで、「AED に対する抵抗感」を少しでも払拭する事に役立ちたい。
- ・その少しずつの積み重ねが「いざと言うその時、少しでも適切な対処ができる」事に役立って欲しい。
- ・松戸での AED の使用率が、他の市町村より少しでも高くなってほしい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

★ 私たちの会の会長は現役の救急の医師です。顧問や理事にも医師が加わっています。このスタッフが AED の使用法や救急救命の指導、講演にあたります。

● 「AEDってなに？ まずAEDの事を知ってもらう活動」

- ・パンフレット、チラシ、地域紙、広報紙でのPR
- ・HP、ブログの活用(現行HP・ブログ見直し)

● 「AEDの正しい使い方を広げる場作り」

- ・「まずAEDを手にとって貰う」場作り…救急救命の初期対処実習
- ・AEDを消火器並みに普通に扱ってもらう体験の場作り

・想定スケジュール(事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	・病院祭出展 ・講習会	・松戸市内、鎌ヶ谷市内病院 ・団体、事業体要請
7月～9月	・防災の日 講習会 ・夏祭り体験会	・町会(小金原)要請 ・町会要請
10月～12月	・音楽界で講話 ・幼稚園体験会 ・病院祭出展、 ・福祉フェア体験実演会	・森のホール ・市内AED設置幼稚園要請 ・船橋市内病院 ・小金原福祉協議会要請
1月～3月	・市内小学校講習会 ・松戸市見本市参加 ・キャラバン見本市参加 ・団体研修会で体験会	・中部、北部 PTA 要請 ・市行事 参加 ・NOP 団体 要請

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

★昨年、当会が対応した体験者数は1回の催し当り≒15名程度(除く、見本市や講話)で、延べ 200名程度でした。よって、一層多く的一般の方に「AEDに馴染んでもらう」ために、以下の優先順位で取り組む。

- 1) 幼稚園、小学校の園児、児童に見せる。PTA で啓蒙、普及の場作り。
- 2) 町会、団体、個人の集会で啓蒙普及の場作り
- 3) 催し会場で体験の場作り
- 4) 医師による講話会、講演会(主に会長対応)

★これらの場を踏まえ、AEDの必要性と重要性を知る人々が少しでも多くなって欲しいと願います。

★これらの活動で松戸市内での AED 利用率が現在の 2.5%から、今後 5%、そして10%へと上昇し、ひいては救命率の向上につながって欲しい。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ①当会の存在と手続きの手軽さを知ってもらうために、パンフレットなどを作成する。
- ②講演、講習、体験会をより充実させるため訓練用用具の充実に努める。
- ③外部インストラクター、救急専門研究員の招聘など任意団体の柔軟性を生かした会を開催して行く。

以上

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
	申請者	寄付金 繰越金など	200,000 円
		200,000 円	
	自己資金合計 (a)	200,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	300,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	パンフレット製作費	40,000 円	5,000 枚 * 8 円 = 40,000 円
	講師謝礼金	30,000 円	10,000 円 * 3 回
	AED レンタル料	50,000 円	1 回 2,500 円 * 20 回
	対象となる経費合計額 (d)	120,000 円	
その他	会議、消耗品	60,000 円	
	備品代	120,000 円	訓練用人形 (60,000 * 2 体)
	その他経費合計額 (e)	180,000 円	
	事業費 (f) (d+e)	300,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にしてください。

(2) 事業計画書

事業名	2011松戸市高校生写真コンテスト
団体名	松戸市高校生写真コンテスト実行委員会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

- ① 松戸市の人口は49万人という首都圏でも有数の大都市にあります。そのなかで、高校生の年代は、希望と閉塞感や将来の不安に落ちこんでいる、多感な年代のハイジュニアでもあります。
- ② ハイジュニアへの情操を育む事業は、学校教育だけに頼っているだけで、地域での育成・交流は欠落しているのが実情です。社会教育事業のなかでも、高校生年代へのアプローチは少ない。市内には県立高校9、市立高校1、清私立2高校の計11高校、約5,000人が通学しています。また、市外の高校に通う高校生も同数はおります。
- ③ スポーツ分野でのチャレンジの機会は多々みられますが、文化面での自己創造・発表での交流の機会を、地域社会、とくに地元に根ざしたイベントを実施することは、有意義なことです。
- ④ 高齢化の進むなかで、高齢者と高校生年代の青少年との文化交流の機会は少ないのが現状です。高校生も市外通学生と市内高校生の交流の機会も少なく、かつ、市内高校にある通学生との交流も横断的な機会も少ないのが実情です。
- ⑤ 教育行政と地域振興における、いわば隙間（すきま）であり、ハイジュニアと成人との人の交流には、当面、今後の改善が必要です。
- ⑥ ささやかな事業ですが、全国的にもめずらしい取り組みなのは、案外と手数のかかる、面倒な事業であり、経費の負担も大きいからであり、かつ、効果も将来的な要素があるからです。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- ① 一つのころみとして、第1回松戸市高校生写真コンテストを全日本写真連盟松戸支部の有志の事業として取り組んでみたところです。資金は有志の賛助金をもって実施しました。第1回目は、事業の周知活動と市内の高校に通う高校生を対象にしたことです。
- ② 次回は事業のさらなる発展として、市内在住の高校生にも参加対象を大きく拡大してゆこうというもの。このことによって、さらに実績をあげて、松戸市民にも関心のある事業にしてゆきたいです。
- ③ 将来を担う青少年、とくに高校生は進学・就職に多感な年頃にあります。人生の15歳から18歳の頃の高校生たちには、さまざまな自己主張の場を提供することは、社会の責務、地域の魅力造出であります。{松戸市の高校に通うことでありがとう!}、{松戸市内の高校生でよかった}、という具体的な満足感を生むことは、地域への愛着を生み、共生・連帯の思いを育てていくこととなります。
- ④ {すぐやる課}のイメージの強い松戸市にあって、{高校生写真コンテスト}の継続的な開催は、千葉県でも初めて、全国的にもめずらしい事業です。作品の内容は、福祉・国際交流・創造性・連帯感を伝え、松戸市に愛着を生み、将来的にも楽しめる機会を生み出していきます。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・ 事業内容

日本に写真文化が発達しだして150年になりますが、現代はケイタイにみられる簡易・手軽に写真による文化創造がみられます。高齢者にとっても、記録・発見・創造の場として、写真は手軽な有効な生甲斐にもなっています。高校生という青春な感性を発表していく場を設けることは、目標と自己実現に大きく寄与できると期待できます。また、成人の写真と併催させることで、お互いの年代との交流の深まりを精神的にもむすびつけていくことです。実行委員には公募を予定しております。直の効果では計りがたいことですが、松戸市の地域力を発信できる場を実現させてゆくことです。近隣市にもみられない本事業が注目を浴びることは、まさに、地域に根ざした地域文化力に貢献してゆくでしょう。

・ 想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	松戸市高校生写真コンテストの実行委員の募集と作品の募集を行なう。展示会場の確保。	当該の実行委員会の設立。協力、後援団体への要請。資金の確保。
7月～9月	8月末締め切り。9月上旬審査会。同下旬、展示会と表彰式の実施。	審査結果の発表、展示用作業、展示会場の受け付け、表彰案内。
10月～12月	事業結果の報告、応募作品の返却。	実行委員会の反省会。
1月～3月	開催への募集要項の点検、会場確保、賞牌・審査員・協力団体の確保。	次期開催への市内高校・市外通学の高校生などへの意見収集。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

平成23年度には、高校の合併があり、あらたに新高校が誕生します。また、市内在住の高校生も応募対象にして、事業の拡大をめざします。約100人の高校生の参加をめざし、展示会への観覧者を1,000人にしたい。マスコミによる松戸市のイメージアップを実現する。先駆的な事業として、他都市でも同事業、類似事業が検討・実施されてゆくことを期待したい。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

全国的にめずらしい事業として、市民にとっても愛着を呼ぶイベントにするべく、ミニコミによるメッセージや参加高校生による口コミ文化を積極的に利用してゆく。成果は、10年、20年後に表れてくる、息の長い事業として取り組んでゆく。高齢者の趣味のなかでも、写真の活動はベストの一つです。身近な世界に親しまれる写真展として定着を実現させていきます。

(3) 事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	出資金	100,000円	@1口千円×100口
賛助金	50,000円	支援団体全日本写真連盟	
	自己資金合計 (a)	150,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	250,000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内、
2. 1事業あたり10万円以内、

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	使用料	50,000円	会場使用料
消耗品費	70,000円	作品展示台紙・チラシ・	
報償費	30,000円	審査員謝礼 (全作品講評原稿料含む)	
通信費	40,000円	(ア) @3千円×10校、作品返却 (イ) 個人応募	
	対象となる経費合計額 (d)	190,000円	
その他	交通費	30,000円	実行委員交通費補助
	飲食費	30,000円	展示作業・打ち合わせ等
	その他経費合計額 (e)	60,000円	
	事業費 (f) (d+e)	250,000円	

事業計画書

事業名	芸術による認知症予防及び進行抑制の為の事業と 認知症高齢者の介護者へ支援事業
団体名	クリニカルアートをひろげる会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

①認知症の症状のある高齢者が増加しており、今後ますます増加する事が予測される。

松戸市の『いきいき安心プランⅢ（第5期高齢者保健福祉計画・第4期介護保険事業計画）』によると、松戸市では介護保険がスタートした平成12年に高齢化率11.9%、高齢者数約56,000人であったが、現在高齢化率は18%を超え、高齢者数は9万人に手が届く状況に増加している。

さらに、高齢化率は、計画期間中に20%台に達し、約5人に1人が、さらに平成26年には、約4人に1人が高齢者になるとみられるとある。

そのうち、いわゆる「動ける認知症」の人は、平成20年4月現在で、3,467人に達しており、要支援・要介護認定者の約3割。徘徊などを伴うことが多いため、一般的に介護の手間がかかるとされていると松戸市の事業計画で報告されている。

認知症は、記憶障害や見当識障害、人格障害など様々な周辺症状を起し、ご近所トラブルとなる場合もあり、介護は肉体的、精神的、経済的な負担は大きい。

認知症の介護は一生懸命介護しても感謝されるどころか周辺症状の為に、暴言を吐かれたり、物を盗んだと疑われたりと、嫌な気持ちになることも多く、認知症高齢者の主張をうのみにした同居していない親族や近隣住民から介護者が責め立てられる事も少なくなく、介護者は孤立化するものが少なくない。

家族間の高齢者の虐待も深刻化しつつある。一生懸命介護しても、誰からも評価されず、特に24時間見守りが必要な認知症高齢者の介護は介護者の肉体的な負担は甚大で疲れやストレスから虐待につながるケースもある。

介護殺人や介護心中など事件に発展するケースでは、要介護者が認知症の症状を持つ事が多くなった。特に昨年4月のタレント、清水由紀子さんの無理心中未遂（由紀子さんは死亡）事件は世間に衝撃を与えた。彼らに共通しているのは、気丈に真面目に介護をし、外に向かって弱音を吐かず、介護に関して周囲から孤立していた点にあるものの、他人事と思えぬ家族は多いのではないだろうか。

②認知症の予防事業は、松戸市の『いきいき安心プランⅢ（第5期高齢者保健福祉計画・第4期介護保険事業計画）』の中でも行なわれているが、現在では様々な予防法があり、高齢者の自主性や個性、好みにあったものでなければ高齢者自身が長続きしない。認知症予防法の選択肢がより多くある事が望まれる。

また、現在の様々な地域などで行われている認知症及び介護予防の取り組みは、年齢の制限（65歳以上など）が多い。認知症の高齢者だけでなく、その周囲の方々の支援をする事も今後の地域の課題であると考える。

多くの施設などで塗り絵や絵画造形制作も行われつつあるが、画材は色鉛筆やクレヨンなど安価で質の悪い物が多く、また色の選択も見本通りに行うなど、その人らしさを生かした物ではない場合が多い。本人の手をとって、介護職員が良かれと思って一緒に制作する場面も散見される。認知症高齢者の場合、出来あがった作品はいずれ、家族にとっては形見の品となる物である。そして、認知症になっても感性の豊かさは比較的残存し、人と人として向かい合って制作すると素晴らしい感性アートを制作する能力があるのに、安価な画材で尚且つ個性を重視しない単一なお絵かきが主流となっている。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

①認知症高齢者に対する理解者が多くいて、介護者が孤立しにくい街にしたい。クリニカルアートを行う事で、健常者と認知症高齢者および介護者が、コミュニケーションを円滑に行いながら、共に暮らせる温かい街にしていきたい。

②多くの選択肢の中から認知症予防が出来、生涯学習的な機会が増える事で、高齢者の生きがいづくりの活発な街にしたい。質の高い画材を用いて、よりクオリティの高い作品を作る喜びを多くの方に知っていただき、松戸を芸術性の高い文化的で、あたたかな街にしていきたい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

※クリニカルアート（臨床美術）とは・・・。

独自のアートカリキュラムにそって創作活動を行なうことで、認知症の症状改善を目的として開発されました。専門の資格（臨床美術士）を有するスタッフが一人ひとりの参加者に沿った働きかけをすることで、その人の意欲と潜在能力を引き出していきます。

認知症の症状改善を目的として始まりましたが、現在では前認知症の人や一般高齢者の認知症予防としても実施を得ています。

以下の事業を平成23年度に助成事業として行う。

①認知症高齢者の介護者を対象とした「臨床カルアートの説明会」及び、認知症の方とその介護者との「合同ワークショップ」を行なう。

(こちらから認知症家族の会などに出向いて行なう事業)

②認知症予防の為のワークショップ

(22年度現在行なっている事業を継続させる)

臨床カルアートをひろげる会では、現在、22年度松戸市市民活動助成事業として、認知症予防の為のワークショップや、高齢者施設でのワークショップなど、様々な活動を行なっている。

また、助成事業以外にも、在宅介護支援センターが主催する介護予防教室、児童館など、活動の幅が広がっている。

昨年の市民活動助成事業審査結果の審査員の付帯意見として「大学との連携をはかること」とあり、6月には地元の大学の生涯学習のイベントに参加し、ワークショップを実施。

昨年の申請当時14名だった会員数も、現在66名となり5倍近くに増えている。

しかしながら、認知症高齢者ご本人への取り組みが、高齢者施設でしか達成できておらず、在宅認知症高齢者への取り組みが不十分な事は、最大の課題である。

毎月2回行なっているワークショップでも高齢者の参加はみられるものの、認知症高齢者本人および、主たる介護者の参加は見られない。

平成23年度では、平成22年度助成事業の「子ども団体のプログラム」「高齢者施設プログラム」は継続しつつも、助成事業からの自立とし、助成申請から外す。

「地域活動プログラム(受益者参加型プログラム)」に特化し、さらに充実させ、特に高齢者や認知症高齢者、及びその主たる介護者への関わりを中心とした活動を助成事業として行なっていきたい。

この為、次年度では、認知症予防の取り組みは継続しつつ、認知症の症状を持つ方や、その主たる介護者への取り組みも、積極的に行っていく。

・想定スケジュール(事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	①認知症高齢者の介護者対象の説明会 ②認知症予防の為のワークショップ (22年度の活動の継続事業。)	①3カ月に1回程度。家族の会などに出向き提案。 ②毎月2回(内容は同月と同じ内容)。市内の公共施設または、提供された会場において行な

		う。対象は高齢者を中心としつつ、大人から子供まで多世代の市民と初期の認知症高齢者。
7月～9月	①認知症高齢者の介護者及び認知症の方が対象のワークショップ ②認知症予防の為のワークショップ (22年度の活動の継続事業。)	①3カ月に1回程度。4月～8月に提案したものを認知症高齢者とその主たる介護者にワークショップを提供する。 ②毎月2回(内容は同月は同じ内容)。市内の公共施設または、提供された会場において行なう。対象は高齢者を中心としつつ、大人から子供まで多世代の市民と初期の認知症高齢者。
10月～12月	①認知症高齢者の介護者対象の説明会 ②認知症予防の為のワークショップ (22年度の活動の継続事業。)	①3カ月に1回程度。家族の会などに出向き提案。 ②毎月2回(内容は同月は同じ内容)。市内の公共施設または、提供された会場において行なう。対象は高齢者を中心としつつ、大人から子供まで多世代の市民と初期の認知症高齢者。
1月～3月	①認知症高齢者の介護者及び認知症の方が対象のワークショップ ②認知症予防の為のワークショップ (22年度の活動の継続事業。)	①3カ月に1回程度。10月～12月に提案したものを認知症高齢者とその主たる介護者にワークショップを提供する。 ②毎月2回(内容は同月は同じ内容)。市内の公共施設または、提供された会場において行なう。対象は高齢者を中心としつつ、大人から子供まで多世代の市民と初期の認知症高齢者。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

①認知症高齢者の介護者対象の説明会及び、認知症高齢者とその介護者との合同ワークショップ

説明会ではできるだけ多くの方を対象としたい。

ワークショップでは1回につき1～3家族程度を対象に行いたい。(1回につき参加者が6名)

認知症高齢者の場合は、症状が重いと臨床美術士がマンツーマンで対応することとなり、臨床美術士は一度に多くの方に対応する事ができない。

家族と認知症高齢者の方は、同室で離れた席で同じ作品制作を行なう。

五感で感じる感性を使って制作するので、上手い下手のないその人なりの感性アートが出来あがる。

鑑賞会では参加者全員の作品を鑑賞し、作品の中の良いところを見つけて、具体的にどこが良いと感じる

のかを言葉にしていく。言葉に出して誉めあう事で、自己肯定感の回復と、作品を通した新しいコミュニケーションが生まれる。普段叱られてばかりが多くなる認知症の方は誉められる事で自己肯定感の回復となる。

介護者は自分がアートによって心が開放されるだけでなく、同じ作品を制作した家族の作品を見て心から感動し、衝撃を受ける。まだまだ「人間」としてしっかり生きている事を確信出来る事は、家族としては純粋に嬉しい事である。作品が残るので、ワークショップが終わった後も、作品を家の中に飾ったりして、作品を通して会話が出来、新しいコミュニケーションツールとなる効果もある。

誉め合い認めあえる関係が築け、笑いや笑顔での会話が可能になるので、在宅介護の家庭に希望がもてる。また、終了後にアンケートを実施し、参加者の満足度を知って、今後のよりよい活動を継続していく資料とする。

②認知症予防の為のワークショップ（22年度の活動の継続事業。）

月2回の合計で、15名以上の参加者をを目指す。

多世代間で行う事で、多くの方により認知症への理解を深めていただくとともに、初期の認知症高齢者が健常であった頃のように、一般市民の社会空間の中で受け入れる場所を提供する。

また、終了後にアンケートを実施し、参加者の満足度を知って、今後のよりよい活動を継続していく資料とする。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

・高齢者介護施設内では、高齢者施設職員の為のワークショップも行ない、よりよい介護環境や人間関係の気づきの場を提供する。また、要望に応じ、家族向けのワークショップも行ないたい。

・他のNPOやボランティア団体、個人などとコラボして、互いの得意分野を生かしながら連携して高齢者や子どものストレス解消や人間関係の改善、自己肯定感の回復等のお手伝いを行なう。大学等の教育機関とも継続して連携に繋がる活動を行なっていく。

・会の運営に関しては安定した資金が必要である。

積極的にイベントなどに参加し、有料のワークショップを行ない収入を得たり、寄付を募って、会の活動を継続させていく。会員数を拡大し、年会費の収入を増やす事で、質の高い画材でクリニカルアートを継続して提供できるようにしていく。

また、ある程度、クリニカルアートの存在を市民に知っていただけた段階で、少しずつサポーター会員の参加費を値上げして、認知症の方とその主たる介護者への援助となる活動をさらに充実させていく。常時活動できる臨床美術士が増えてきた段階で、高齢者施設での活動の場を増やし、会の資金面での安定を図る。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金) 参加費	金額	積算内訳
			150,000 円 ✓
	自己資金合計 (a)	150,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円 ✓	
	収入合計 (c) (a+b)	250,000 円 ✓	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内 ✓
2. 1 事業あたり 10 万円以内 ✓

【支出】

	項目	金額	積算内訳
	交付対象経費	報償費	52,000 円
印刷製本費		14,000 円	チラシ案内のコピー代
通信費		3,200 円	案内文書 80 円×説明会参加者 20 名×2 回
消耗品費		158,960 円 ✓	500 円×15人×12回=90,000 ✓ 500 円×6人×2回=6,000 ✓ オイルパステル 800 円×15 丁 アクリラガッシュ 2,747 円×10 丁 透明水彩・その他 糊など 23,490 円 ✓
保険料		13,440 円	560 円 (団体保険) ×24 回
対象となる経費合計額 (d)		241,600 円 ✓	
その他		交通費	8,400 円
	その他経費合計額 (e)	8,400 円 ✓	
	事業費 (f) (d+e)	250,000 円 ✓	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	発達障害に関わる方々のご家族支援事業
団体名	Wing (ウィング)

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

解決したい課題：

- ・地域の人々が社会の中で不適応を起こしている方々（不登校の生徒、発達障害児・者、外国にルーツを持つ人々、何らかの困り感を持つ人々）への理解を高めること。
- ・不登校の生徒、発達障害児・者、外国にルーツを持つ人々、何らかの困り感を持つ人々が社会参加でできること。
- ・当事者・ご家族が学習する機会を与えられ、精神的居場所があること。
- ・支援する人々が増えること。

『2007年千葉県統計指標』によると松戸市の不登校者数533名、これは100人中1.4人が不登校になっているという数値です。

また松戸市の生活保護費も年々上昇傾向にあり、児童虐待対応件数も平成18年で80件であったものが平成20年では220件まで増加しています。

文部科学省は、2002年10月に小・中学校の通常学級を対象に学習障害（LD）や注意欠陥/多動性障害（ADHD）、高機能自閉症などの特徴を示す児童生徒について『通常学級に在籍する特別な教育支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査』を実施しました。その結果、学習面ないし行動面、あるいはその両方に著しい困難を持つと担任教師が回答した児童生徒は6.3%もいることが報告されています。40名のクラスで2～3人在籍している計算になります。

LD、ADHD、高機能自閉症・アスペルガー症候群などは、知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で、さまざまな特徴のある困難を示す子ども達です。

ホームレス、生活保護受給者、犯罪につながる行為に至る人の中に発達障害の方が多数存在するのではないかと政府の統計にも見込まれています。

あいち小児保健医療総合センター保健センター長の杉山登志郎氏のデータから知能指数70～84（ボーダーライン・知的障害には入らない境界のところ）の子ども達が7人に1人存在し、多くの発達障害の子ども達はこのボーダー域にいます。2007年の統計では不登校の生徒の67%が高機能広汎性発達障害の子どもで、年々割合は増加していると報告しています。

またこれらの子ども達は、育てにくさから親から虐待を受けているケースも多いことが報告されています。

このような子ども達は習得する能力を持ってはいても認知に特性があることで、健常児の子ども達とは少し違う指導また時間を要したりします。また当事者は大変な苦痛を持って社会生活を送っています。

発達障害の子ども達は学習面、行動面、コミュニケーション面など多岐に亘り子どもひとりひとりの特性に合わせたきめ細かやかな支援を必要としています。現状の学校の中で担任の先生がそこまで支援す

ることは大変難しいことが学校の問題としても明らかにもなっています。

さらに当事者・保護者の方は講座やクリニックなどの勉強会や施設があっても高額であったり、時間的制約で利用したくても利用できない（特に一人親家庭）、またその情報を得る方法がわからない・機会に恵まれない方も多数います。

社会的認知度もまだ低く、「怠けている」と言われたり、テレビの報道でも「今回の犯罪は〇〇発達障害の人によるものです。」などの偏見を向けられています。このことにしても記憶の問題を抱えているために執行機能がうまく働かなかったことで怠けているように見られたり、障害が犯罪を生んだのではなく、環境がその行為を起こさせたといえます。

そこでそのような当事者・ご家族の抱える問題、また学校で支援しきれない部分に以下の3の事業内容で解決していきたいと思います。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

○ 他の市民団体さんへの参加を通して支援者を増やし、また地域の方のご協力とご支援を頂き、子ども達ひとりひとりが地域の中で認められ自尊心を高め自発的に活動ができ、差別を受けることなく地域・学校で適切な指導・支援を受け、孤立せず、誰もが安心して暮せる町にしていきたい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

<具体策>

・当事者支援

- ・フリースペースの提供（自宅）〔仲間作り・相談と居場所〕
- ・自律（自己コントロール）訓練・リラクゼーション〔苦しみから解放する方法を習得することにより精神的安定を目指す〕
- ・学習支援（日本語や各教科を通所型・訪問型で対応）〔自信回復・教科の理解〕
- ・市民団体への参加〔社会性・人脈を育て、人への信頼感・郷土愛作りが目的〕

・当事者と家族支援

- ・講演会・勉強会〔課題の共有・解決・相互理解・自助的役割〕

・地域への啓発活動

- ・講演会〔当事者理解の普及活動〕
- ・市民団体への参加〔団体への支援・理解者を増やす〕

上記の事業内容より当事者・ご家族への心理的支援、学習的支援、情報の提供、生活上の相談、就労支援などを行ない当事者の経済的自立を目指し、また地域への啓蒙活動により支援者を増やし、社会

の中で不適應を起こしている方々の生活の向上、ノーマライゼーションの社会を目指します。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	①フリースペース ②チラシ作り・関係団体回り・仲間作り	①自宅 ②適宜
7月～9月	①講演会 ②学習会 ③フリースペース ④フィールドトリップ	①市民会館 ②市民会館 ③自宅 ④適宜（当事者の状況により決める）
10月～12月	①講演会 ②学習会 ③フリースペース ④市民団体への参加	①市民会館 ②市民会館 ③自宅 ④適宜（当事者の状況・団体の意向により決める）
1月～3月	①講演会 ②学習会 ③フリースペース ④市民団体への参加	①市民会館 ②市民会館 ③自宅 ④適宜（当事者の状況・団体の意向により決める）

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- ① 講演会（年3回）・学習会（年3回）
- ② サポーター・ボランティアの募集と育成（1年目に5名）
- ③ 運営費の捻出の仕方を確保する（会費・授業料など）
- ④ 将来的には企業との連携、当事者が就労訓練を受ける場所を運営し、そこから企業への就職や独自の仕事を捻出していけるようにすること。（発達障害の方には、細かい指導と企業への働きかけが必要なので、ジョブコーチとしても就労後は支援していきたい）

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ① 引き続き講習会・勉強会・フリースペースの運営
- ② 市民団体への参加
- ③ 就労相談・支援業務
- ④ 学校への支援〔当事者・学校・先生方・保護者との連携〕、学校ボランティア・支援員の育成
- ⑤ 企業連携業務

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金) 受益者負担金 会費	金額	積算内訳
		50,200 円	受益者負担金 300 円×3 人×4 回× 12 ヶ月=43,200 会費 1,000 円×7 人=7,000
	自己資金合計 (a)	50,200 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a + b)	150,200 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	フリースペース運営費	43,200 円	資料代
	講演会謝礼金	16,000 円	講師料 8,000 円×2 回=16,000 円
	講演会会場運営者報奨費	12,000 円	3,000 円×2 人×2 回=12,000
	学習プログラム講師料	15,000 円	15,000 円×1 回=15,000
	学習プログラム会場運営者報奨費	6,000 円	3,000 円×2 人×1 回=6,000
	講演会等打合せ諸費用	5,500 円	
	会場使用料	22,500 円	2,500 円/H×3H×3 回=22,500
	広報チラシ・講演会レジメ・学習 プリント・インクなど消耗品	20,000 円	
	通信費	10,000 円	
	対象となる経費合計額 (d)	150,200 円	
その他	その他経費合計額 (e)	0 円	
	事業費 (f) (d + e)	150,200 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

(第6条関係)
事業計画書

事業名	手作り甲冑普及事業
団体名	松戸手作り甲冑愛好会

★貴団体が申請する活動について、お伺いします。

1. どのような課題を解決したいのか、その現状や背景なども含めて記載して下さい。

平成20年、21年に続き今年も4月から講習会を実施して手作り甲冑の普及を図った結果、今年の松戸まつりには初めて自前の甲冑を含んだ「甲冑行列」を行うことが可能となったものの、松戸手作り甲冑愛好会として動員できる甲冑数はまだ12領であり、各種のイベント等に参加して松戸市の観光のお役に立てるためには動員できる領数を増やす必要がある。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

松戸市の矢切地区や松戸駅東側の相模台では、戦国時代に大きな戦がおこなわれた歴史があるが、このことは市民にはあまり知られていない。このような郷土の歴史を松戸まつりなどの中で甲冑行列で再現し伝えていき、郷土を愛する市民を醸成する一助とする。

3. どのような課題の解決につながるのかが、分かるように活動内容を記載してください。

・活動内容

平成23年度も、戸定が丘歴史公園内の松雲亭で、市民を対象にした「手作り甲冑講習会」を当面は年1回(月4日程度・6ヶ月間)合計20回行い、甲冑の数を増やして松戸まつりなどのイベントへの参加、着付け体験等の実施、甲冑の貸し出しなどを行い手作り甲冑のPRと普及を図っていく。

講習会の実施方法としては、いままでの講習会は館山から講師を招いて実施してきたが、コストが高いことから今後は費用削減のため愛好会のメンバーが講師となって講習会を実施していく。

また同時に手作り甲冑の一層の普及を図るためには新たな指導者を育成することが急務であり、このためには年に数回程度館山に教えを請いにいく必要がある。

その受講に要する費用と甲冑を増やす材料費について助成して頂きたいと考えている。

- ・想定されるスケジュール（活動内容について、具体的な取り組みを画きのとおり記載してください。）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	手作り甲冑講習会の実施 着付け体験の実施	体制 手作り甲冑愛好会メンバー 対象 募集に応じた市民 場所 戸定が丘歴史公園内の松雲亭
7月～9月	手作り甲冑講習会の実施	同 上
10月～12月	松戸祭りへの参加 喫茶「カフェ甲冑」の実施 愛好会所有の甲冑の作成	体制 手作り甲冑愛好会メンバー 場所 戸定が丘歴史公園内の松雲亭
1月～3月	愛好会所有の甲冑の作成	同 上

4. 活動に取り組む上で、どれだけのことを達成したいのか、その目標を記載してください。

手作り甲冑講習会や各種イベントを通じて、素晴らしい甲冑が手作りで楽しみながら出来ることを多くの人に知ってもらおうとともに、講習会の受講者の中から指導者になる人の育成を図り、手作り甲冑の輪がさらに広がるように努めて行く。

そうして甲冑の数を増やし、松戸まつりの甲冑行列などの際に他から甲冑を借りずに行うことができるようにしていく。

5. 助成金終了後、活動を自立させていくために、どのようなことに取り組むのかを記載してください。

手作り甲冑の輪が広がり、イベント等に動員できる甲冑がふえることにより、市民の関心も高まり、さらにその輪が広がり受講者も増えていくと考える。

費用的には、愛好会メンバーの技術向上を図ることにより、館山への受講も不必要となりコストを削減し、一方、喫茶「カフェ甲冑」の実施、着付け体験の実施、甲冑の貸し出しなどを積極的に実施し活動資金としていく。

(第6条関係)

事業の予算計画書

【収入】

	項 目	金 額	積 算 内 訳
申 請 者	(自己資金)		
	会員年会費	12,000円	@ 2,400円×5人
	講習会受講料	30,000円	@ 6,000円×5人
	喫茶(カフェ甲冑)売上収入	36,000円	
	自己資金合計(a)	78,000円	
市	助成金申請額(b)	100,000円	
	収入合計(c)(a+b)	178,000円	

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d) 蘭の90%以内
2. 1事業当たり10万円以内

【支出】

	項 目	金 額	積 算 内 訳
交 付 象 経 費	指導者育成費用	60,000円	@ 20,000×3回
	甲冑材料費	70,000円	
	講習会用消耗品費	15,000円	紙用ボンド、ニス等
	喫茶(カフェ甲冑)材料費	28,000円	
	対象となる経費合計額(d)	173,000円	
そ の 他	愛好会消耗品費	5,000円	
	その他経費合計額(e)	5,000円	
	事業費(f)(d+e)	178,000円	

事業計画書

事業名	生活に役立つ「暮らしとお金の」 セミナーと相談会
団体名	松戸生活やくだちたい

★貴団体が申請する事業について、
お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

生活設計の三大要素は、「生きがい」「健康」「経済（家計）」と言われていますが、この「経済（家計）＝暮らしとお金」について、行政機関が実施するものを除き、中立的な立場からの啓発講座や安心して相談できる相談会が非常に少ない現状にあり、この状況を解消したいと考えます。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

私たち「松戸生活やくだちたい」は、「日常の家計管理」を切り口として中立的な立場からの啓発講座を開催し、安心して質問や相談できる相談会を開催することを計画します。

このことが市民自らが考え・具体的に行動することへの支援となり、最終的に「暮らしとお金」の自己解決能力が向上した地域が期待できると思います。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

「暮らしとお金」のセミナーと相談会を年間3回、テーマは別途検討の上で進めます。このセミナーと相談会を定期的な開催により、住宅ローンなどを含めた資産・負債管理、老後の生活設計、年金・仕事と生活のバランス、医療・保険など病気・事故への備え、相続などの「暮らしとお金」について安心・安全な地域が期待できると考えます。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	準備活動（会場確保）	
7月～9月	無料セミナーと相談会の開催1回 出前講座2回	松戸市民劇場 松戸市民対象
10月～12月	無料セミナーと相談会の開催1回 出前講座2回	松戸市民劇場 松戸市民対象
1月～3月	無料セミナーと相談会の開催1回 出前講座2回	松戸市民劇場 松戸市民対象

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

目標は、平成24年度から助成金事業としてではなく事業ができる目処がたっていることです。

集客の数値目標としては、

セミナー参加者 20人

相談者 10人

が見込める集客力・知名度を得ることを目標とします。

また、「松戸のくらしをよくしたい」という志を同じくする松戸市内の他の団体と連携をとり、
“年齢・世代に合わせたタイムリーな情報を提供する”出前講座事業の展開を目標とします。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

将来的には、「ワンストップ」機能を持つ総合相談窓口として、情報と支援を必要としている人に、必要なときに必要な情報が提供できる体制作りを目指し、生活者の自助努力による生活改善を支援し、住みよい街づくりを目指していきたいと考えています。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	参加費(セミナーと相談会)	0円	0円
出前講座・寄付金	30,000円	30,000円	相談会 @1,000*10人*3回
	60,000円	60,000円	出前講座 @20,000*3回
	24,000円	24,000円	寄付金 @1,000*8人*3回
	自己資金合計(a)	114,000円	
市	助成金申請額(b)	100,000円	
	収入合計(c)(a+b)	214,000円	

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	セミナー印刷費(両面・2色)	42,000円	@7*2,000部*3回
	セミナー広告費	0円	広報まっど/市民センター
		84,000円	ミニコミ誌 @14,000*2地区*3回
	広報活動費	15,000円	@5,000円*3回
	会場費	0円	市民劇場
	講師代・資料代	37,500円	セミナー @2,500*5人*3回
		30,000円	出前講座 @10,000*3回
	通信費・予備費	2,500円	
	対象となる経費合計額(d)	211,000円	
その他	打合せ会議費・交通費	3,000円	@1,000*3回
	その他経費合計額(e)	3,000円	
	事業費(f)(d+e)	214,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	若者と協働の森づくり
団体名	松戸里やま応援団 三樹の会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

今までの活動を通じて、地域の人達に愛される森づくりが必要と感じている。平均年齢が高く掲示板、イベント等でPRしているが、若者の参加、近在の人達の参加が少ない。

Let's ボランティア体験は年々生徒の参加が増えている。(H22年度は26名三樹の会の活動に参加体験した。) 継続的な活動により、森(みどり)の素晴らしさ、自然の大切さを伝え未来に残す必要がある。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

- ・地域の人達の積極的な参加により、森の大切さを知ってもらい交流の場とする。
- ・近隣の小中学校の環境教育および自然とふれあえる遊びの場を提供する。
- ・近未来の担い手の育成につながる。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

- 1) 金ケ作小中学校の自然観察、環境教育、森の遊び受け入れやイベントの開催
- 2) 金ケ作町会主催の「金ケ作まつり」の竹細工コーナーを担当地域住民との交流
- 3) ミニ門松作りのイベント開催で地域の人達の参加を呼びかける。
- 4) 過去4年間の Let's 体験者に呼掛け、「(仮称)三樹の会ジュニア隊」を募り若者の参加を促進する。
第1土曜日の定例活動および森のイベントを行う。

・想定スケジュール(事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおりに記載してください)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	第1土曜日定例活動・自然観察 孟宗竹の筍掘りイベント	ジュニア隊会員と合同作業 三吉の森、立切の森
7月～9月	第1土曜日定例活動・自然観察 金ケ作まつり参加、夏休み工作教室	同上 金ケ作小学校
10月～12月	第1土曜日定例活動・自然観察 ミニ門松づくり開催	ジュニア隊会員と合同作業 会員の指導、一般地域の人を対象
1月～3月	第1土曜日定例活動・自然観察 刃物の手入れ	ジュニア隊会員と合同作業

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- ・中高生、大学生は進学、就職等により取り込んで定着して貰う事は多々難しいと思うが、ジュニア隊を結成して将来のみどりの担い手となる動機づけをしたい。
- ・地域の人の参加を呼びかけ、会員の10%(3名)以上を新規会員に取り込み地域の人々が親しめる森づくりを目指す。
- ・第1土曜日の定例活動のジュニア隊(中高大学生)の参加者5名以上を確保、地権者様とも連携して春の筍掘り夏にジュニア隊中心に地域住民と夏休み工作教室などのイベントを行う。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・Let's ボランティア体験者を取り込むシステムを構築、定着させることにより保全作業能力がアップする。整備作業を進めながら、質の高いスキルを身につけるプログラムを展開する。(ジュニア隊の継続)
- ・地域との交流の場、夏休みの工作教室などを継続していく事により、地域との良好な関係を保ち若者の参加を促進していく。

事業の予算計画書

[収入]

単位:円

申 請 者	(自己資金)		
	年会費	25000	@25人 * 1000
	緑と花の基金より助成金	30000	
	イベント協力金	20000	根本内公園夏休み工作作り・ゆいの花公園ミニ門松作りの協力
	事業収益金	155000	みどりと花のフェスティバル・小金ぶらり市・常盤平7丁目祭り・戸定祭に出店し工作物販売
	地主様より支援金	20000	
	自己資金合計(a)	250000	
市	助成金申請額(b)	100000	
収入合計(c)(a+b)		350000	

[助成金申請額(b)チェック項目]

1. 対対象ちなる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

[支出]

交 付 対 象 経 費	通信費	20,000	
	保険料	15,000	入会青少年のボランティア保険
	備品費	30,000	入会青少年用ノコギリ5丁、剪定鋏5丁
	消耗品費	7,500	
	印刷費	10,000	
	講師謝礼金	20,000	
	ヘルメット	22,500	入会青少年用@1500 * 15
	対象となる経費合計額(d)	125,000	
そ の 他	備品費	90,000	三樹の会用大物備品
	消耗備品費	25,000	紙やすり・接着剤・ノコギリ替刃等
	一般消耗品費	20,000	ガソリン・チェーンオイル・カットナイロン等
	クラフト材料費	40,000	工作品用材料費
	事務費	30,000	
	その他出店費等	20,000	
	その他経費合計額(e)	225,000	
事業費(f)(d+e)		350,000	

事業計画書

事業名	「手と手で話そう Part 2」
団体名	NPO法人 子どもっとまつど

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

- ・昨年度の事業を通して、ろうあ者のもつ豊かなコミュニケーション能力に感銘をおぼえた。
- ・また、障がい者への理解が乏しく暮らしにくい現実（困ったこと）がまだまだ沢山あることも学んだ。
- ・しかしながら、相互の能力や違いを認めあい、共に生きる仕組みがまだまだ不十分であることも実感した。
- ・自ら体験のないことに共感できる感性を育むとともに、より多くの人たちにこの現実を知ってもらうための取り組みをしたい。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

今回の企画で、感性が豊かな子ども時代に多様な人との出会いや、違いを認め合う体験の機会を多くつくることで、人権が尊重され豊かな地域社会が生まれる一助となると考える。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

- ① 障がい者を講師にワークショップ（交流会、学習会）を行う。
- ② 受講者が体験をもとに相互に学び合い、表現活動（演劇、人形劇など）のカタチにする。
- ③ イベント会場や施設での発表会を行う。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	ワークショップ① ワークショップ②	実施体制：障がい者団体と子どもっとまつどとの協働で 対象：主に小学生の親子 場所：市内市民センターなど
7月～9月	表現活動③ 表現活動④ 表現活動⑤ 表現活動⑥	実施体制：障がい者団体、演劇指導者と子どもっとまつどとの協働で 対象：主に小学生の親子 場所：市内市民センターなど
10月～12月	発表会 2～3回	実施体制：市民団体 対象：企画参加者 場所：市内市民センター他
1月～3月	ふりかえりの会	

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- ・まずは、ワークショップへの参加者を昨年同様の人数を集め、表現活動へ引き続き参加する子どもたちの数を増やしたい。
- ・発表会の回数を2回以上行う。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・表現活動の参加者を随時つのりながら、幅広い世代に伝えていく活動を継続して行っていきたい。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金) 参加費	金額	積算内訳
			22,500 円
	自己資金合計 (a)	22,500 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
収入合計 (c) (a+b)		122,500 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内 /
2. 1 事業あたり 10 万円以内 /

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
		講師謝金	84,000 円
	広報費	10,000 円	チラシ印刷@2 円×2000 枚 4000 用紙@2 円×2000 枚 4000 ポスター@80×25 枚 2000
	資材費	20,000 円	発表用材料費、衣装代
	会場費	6,000 円	@1000 円×6 回
	対象となる経費合計額 (d)	120,000 円	
その他	スタッフ交通費	2,500 円	
		円	
	その他経費合計額 (e)	0 円	
事業費 (f) (d+e)		122,500 円	

事業計画書

事業名	福祉のまちづくり推進のためのシンポジウム・先進地見学事業
団体名	バリアフリーまつど市民会議

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

少子高齢化が急速に進む現在は、高齢者や障害のある人、乳幼児のいる親子連れなど、誰もが暮らしやすいまちづくりの実現が求められている。しかし地域によっては、危険な道路、配慮のない交通体系、市民の無理解など、障害のある人や子供連れの親子などが、暮らしにくさを感じている現状がある。そして、一般市民が、様々な人々に配慮した福祉のまちづくりのあり方や具体的なお手伝いの方法等について知る機会はあまりない。

そこで、多くの市民が福祉のまちづくりに対して関心を持ち、その担い手として、日頃の生活の中での確かな行動ができるよう、福祉のまちづくりの普及・啓発を行う。具体的には、福祉のまちづくりに関するシンポジウムの開催と先進地域・事業の見学（障害のある人もない人も参加）を行い、福祉・教育・行政等の関係者の意見交換を行うと共に、広く一般の人々の意識の啓発を図る。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

シンポジウムの開催や見学会を通じて、市民の福祉のまちづくりへの意識・関心が高まり、障害のある人、高齢者、子どもへの具体的な支援の方法等も学ぶことができる。また、福祉のまちづくりのボランティア育成、関係者のネットワーク化により、子供から大人まで幅広い世代にむけた啓発活動を実施することができる。これらにより、乳幼児から高齢者や障害のある人まで、さまざまな人が安心して暮らせるまちづくりが各地域において推進されると考えられる。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

バリアフリーの道路整備、コミュニティバスを含む交通体系、心のバリアフリーなどは、福祉のまちづくりの核となるため、これらを中心的テーマとして、シンポジウムの開催と見学会を行う。

1) シンポジウムの開催

福祉のまちづくりの先進事例に関する講演を聞き、さらに市内における福祉・教育関係者により、福祉のまちづくり教育に関する取り組みを紹介してもらう。今後の福祉のまちづくりのあり方、その普及・啓発のあり方について、それぞれの立場から意見交換を行う。

2) 見学会の開催

幅広い市民に呼び掛けて、福祉のまちづくりの先進地・事業の見学会を実施する。見学会を通じて、地元、松戸の福祉のまちづくりの今後の取り組みの方向性についても知見を得る。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	シンポジウム企画案作成 講師の選定、案内状の発送	

7月～9月	シンポジウムの開催。仮称「ちょっとした工夫と気遣いで福祉のまちづくり」。切実な想いと先進例などを学ぶ	・福祉、教育、行政などの関係者と市民の意見交換、80人 ・市民センター小ホールなど
10月～12月	シンポジウムまとめ、ネットワーク化に向けた情報交換の実施、見学会準備	
1月～3月	見学会実施・事業のまとめ	福祉のまちづくり条例などを持っている自治体などの先進例を学び、ハード面の現状も見学する。30名、福祉バスなどをチャーター。

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- 1) 福祉のまちづくりに理解のある人を増やす、シンポジウム参加 80 名
- 2) 見学会への参加で一層の理解と活動に確信を持つ。 参加 30 名、
- 3) 二つの取り組みを通じて、福祉のまちづくりのボランティアの育成及び、関係機関とのネットワーク作りの土台を作る。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・ネットワークを生かした福祉のまちづくりの普及・啓発活動の継続
- ・多くの市民世論の高まりで、「福祉のまちづくり条例」（仮称）を持つ松戸市をめざす。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金) 会費・寄付	金額	積算内訳
請者		30,000 円	会より繰り入れ 30,000 @1,000×30 人
	見学会参加費	30,000 円	
	自己資金合計 (a)	60,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
収入合計 (c) (a+b)		160,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	貸切バス	80,000 円	中型バス 1 日 (福祉バス)
	講師謝礼	30,000 円	(15,000×1名)+(5,000×3名)
	消耗品	15,000 円	資料コピー、ちらし印刷、写真
	会場費	10,000 円	実行委員会・シボジウム会場
	保険料	3,000 円	行事保険
	通信費	7,000 円	案内状の発送
	対象となる経費合計額 (d)	145,000 円	
その他	会議費	5,000 円	
	会員外スタッフ交通費	10,000 円	@500×20 人
	その他経費合計額 (e)	15,000 円	
事業費 (f) (d+e)		160,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	Jキッズ 子どもまつり事業
団体名	特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド

★貴団体が申請する事業について、
お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

現在、少子高齢化が進み、地域の子ども会の減少や地域の方との異年齢交流が減少してきている。そのため社会性や思いやりの心を失った子どもたちが多く、犯罪の低年齢化や登校拒否・学級崩壊などの問題が起きている。また、「考える力」を養う機会が少ないため、生きる力、自主性を失い、何に対しても無気力な子どもたちが多い。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

世代間交流や地域の方々との交流により、同世代間だけでは養いきれない社会性、協調性、思いやりの心を育てる事が出来る。結果、犯罪の低年齢化や学級崩壊などの減少につなげていく。

また、「考える力」を養うことで、創造性や自主性を持ち、社会に積極的に貢献出来る子どもたちに育てることが出来る。このような次世代を育てる事で、地域を活性化させ、上記の問題を積極的に改善できるものと考えている。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

・子どもたちが内容やルールなどを自ら考えたゲーム、イベント、模擬店を提供する。

1から子どもたちが考え、子どもまつりを作り上げていくことで自信が付き、さらに自主性、積極性を育てる事ができる。

・実施日 平成23年7月開催予定

・場所：新松戸SRCビル2階、3階、及びプレスクールひかりの子

・参加者にゲーム券を購入していただき、収益金の一部は義援金として国際飢餓対策機構へ寄付する。

参加者が楽しみながらボランティアにも参加することが出来るため、地域の方のボランティアに関する意識を高める。

・広報活動としてチラシ作成をし、地域の^{小学校}に配る。また、コアラテレビの取材依頼、町内会、商店街への宣伝、月刊新松戸など地域の情報誌へ情報提供をしていく。広報活動を昨年以上に活発に行いたい。

・異年齢の方々に協力していただき実施する。様々な年代との交流により、社会性、協調性を身につけることが出来る。また、地域の方に活躍していただく場所を提供することが出来る。

・実施する場所の町内会に子ども会がない。過去に町内会の敬老会へ参加した実績があり、高齢者との関わりはあるが、地域の子どもたちやそのほかの世代との交流がない。子どもまつりを町内会との連携で行う事で、Jキッズが子ども会の役割を果たし、地域に貢献していけたらと考えている。

・前回のぼり旗を2枚作成したが、道に迷う人がいたため、今回は道案内用に旗を作成する。

まふい

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	ゲームの内容、配置・担当決め 模擬店の内容・販売金額決め 物品の準備・ボランティアの手配・宣伝 道案内用の旗を作成・購入	Jキッズのこども達(小学生)と中高生のボランティアが中心で行う。月3回(土)10:30～12:30に活動して準備する。場所：SRCビルにて
7月～9月	子どもまつり直前準備・当日準備 中間報告	Jキッズのこども達・中高生・地域の方々のボランティアとともに 場所：SRCビル2階・3階・プレスクール
10月～12月	決算など	
1月～3月		

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

目標受益者人数 150名とする。(昨年度の1.5倍)

チラシ作成・配布場所をさらに増やし、弊事業を昨年以上に広くアピールすることで、受益者人数を増加することが出来、登録人数を増加させることが出来ると見込まれる。

その結果、さらに事業内容を充実させ、活性化でき、さらなる三世代交流、地域の方との交流の場を広げていけるものと考えている。

地域の子ども会の役割を担い、子どもの活動に活気がなかった地域を活性化させるとともに、さらに広く弊事業の働きを知っていただき、町内会との連携を取っていけるようになる。

地域の方々に世代間交流の場を提供し、地域に貢献する。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

地域の子ども会的な役割を担い、より地域と連携を取り、貢献していく。町内会との連携から、さらに大きな地域の働きへと今後拡大していきたい。

この事業において様々な年代のボランティアが参加してくれると見込まれるが、その後さらに通常の活動のボランティアに巻き込み、地域の方が活躍する場を提供する。

三世代で様々な活動を出来るようにしたい。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	ゲーム参加費	15,000 円	✓
	自己資金合計 (a)	15,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	✓
	収入合計 (c) (a+b)	115,000 円	✓

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	チラシ・ポスター・広報	30,000 円	✓ チラシ ^{5/1000} 3,000 枚 ポスター30 枚
	会場使用料・機材レンタル料	12,000 円	
	道案内用のぼり旗・T シャツ他	27,000 円	
	保険料	12,000 円	150 人×80 円 ✓
	通信費	4,000 円	80 円×50 通 ✓
	消耗品費 (模擬店・ゲーム材料代他)	30,000 円	
	対象となる経費合計額 (d)	115,000 円	✓
	その他	円	
その他経費合計額 (e)	0 円		
	事業費 (f) (d+e)	115,000 円	✓

事業計画書

事業名	まちづくりコラボサロン
団体名	まつどサロンネットワーク

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

自分のスキルを生かしたり、地域で課題に向けて行いたい活動があってもどのように実現しているのかわからない人たちが数多くいる。特に高齢の人や退職したばかりのシニアの人は情報や人脈が無い。どこに行っているのかわからない人が多い。また、活動していても出会いが無いために活動が広がらないということがある。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

個人にとっては、人の役に立ちたいと思っている人たちの力を、現実には地域で何かできる方向に向かわせることで生きがいのある人生を送ることができる。社会的にはそれをネットワーク化することで、地域的に孤立化している人たちを減らし、顔見知りを増やしたり協力し合う関係を少しでも構築し、住みやすい地域を形成する。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

「まつどサロンネットワーク」では「自分を活かす場を探すため」「取り組みたい活動を支援するため」に人と人のネットワークを広げるサロンを定期的を開催する。

また、社会の課題について考える講演会や子どもたちを対象にしたイベントをおこなって、その中で自分のできること、実現したいことを考えていくような参加する機会を提供する。

以上のような事業を通じて多くの人ネットワークを作っていく。

・想定スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	・各月に2回ほどサロンを開催 そのうち年間を通じて7回以上は ゲストを囲んだサロンないしは講演 会などの企画を、サロン参加者に は	・登録会員には全員に開催予定を告知、その ほかには一般の人呼び込むように、特に講 演会やゲストを呼んだサロンの時は、それに 応じて各市民センターやミニコミ誌などを通 じて広報を行う。 対象はその課題に応じてシニアだったり、子 育て中の母親対象だったり、問題を抱える人 だったりする。 場所は公共施設を中心とする。
7月～9月	かり、開催内容を決定しておこなう。	
10月～12月	・年間2回以上イベント開催 (今年の「ファミリーサロン」のよう なイベント、ないしは講演会など。た だし、内容や対象者は随時サロンの中 で決定)	
1月～3月		

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

- ・サロンへの参加登録者(新規参加者)の人数を増やす。目標は1年間で50人。
- ・サロンネットワーク参加者にとって利点のあるようなイベントを、意見を聞きながら開催する。少なくとも年1回イベント、年1回講演会は開催して、イベント集客数は100人以上、講演会は50人以上の集客を目標とする。(その他の企画は会員から要望があれば、その都度企画実施)

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

サロンは定期的に月1回以上開催していく。

サロン参加者と随時相談しながら、人の出会いの場としての地域でのイベントを開催したり、ネットワークをさらに発展させていきたい。

会報紙作成も目標としたい。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
		サロン参加費 40,000 円	20 回×10 人×@200
申請者	イベント、講演会 など参加費 25,000 円	①イベント1回 参加団体各 500 円×20 団体 (個人は無料参加) ②講演会(資料代)1回 500 円×30 人	
	自己資金合計 (a)	65,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	165,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内 /
2. 1 事業あたり 10 万円以内 /

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	謝金	71,000 円	①講演会謝金 50,000 円 ②ミニ講演会講師謝金 (7 回) @3,000×7 回 21,000 円
	サロン開催会場費	30,000 円	@1,500 円×20 回
	イベント会場費	5,000 円	講演会を公共施設以外の場所での開催を想定しての会場費
	印刷費	10,000 円	広報チラシ、ポスター作成
	消耗品費	16,000 円	会報などの印刷、インク代 事務用品などの消耗品
		対象となる経費合計額 (d)	132,000 円
その他	駐車場代	11,000 円	講演会、イベントあるいはサロンの開催に必要な物品を運ぶための車両の駐車場代 1 回 500 円×22 回

	茶菓代	22,000 円	サロン開催時イベント開催時の茶菓、 茶代 1,000 円×20 回(サロン) 2,000 円 (イベント、講演会茶代)
	その他経費合計額 (e)	33,000 円	
	事業費 (f) (d+e)	165,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	がんに関する啓蒙活動 事業
団体名	松戸がん情報発信チーム

★貴団体が申請する事業についてお伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

がんは2人に1人がなる病気にも関わらず、(国立がん情報センター最新がん統計 2006年10月01日より) その病気について、大半の一般市民は正しい知識を有しているとは言えないばかりか、考える機会すらないといった現状がある。

特に松戸市などの人口が多い地域の、がんについて無知な人、または誤認識する人が、その人口に比例して多くなるといった地域課題を解決したい。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

今まで、全く知識がなかった人、誤った認識をもった人に、がんについての正しい情報を知ってもらうこと、考える機会をもってもらうことで、自身や周囲の人のがんの予防をすることや、いざなってしまったときの選択枝を増やし、がんと正しく向き合える人の多い地域にしたい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

がんという病気に関しての理解、考える機会の創出 事業

1 セミナーによる、がんについての各種の情報(医学的、経済的、心理的)の発信から知識を得てもらう

2 テーマを変えながら定期的にワークショップを行い、がんについて考えてもらう機会をつくる

※参加した人が会の外でも、がんに関して理解を深め、家族や友人・知人に情報を自発的に発信してくれるよう働きかけ当日の内容をHPや会報にまとめ、共有しやすいようにサポートする。

またメルマガの発信などを通して活動が継続されるようサポートする。

・想定スケジュール(事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください)

2010年4月より以下内容の実施

回数	実施内容	詳細	実施体制、対象、場所など
半期 1回	がんセミナー	(例1) 実際にがんと闘病されている方との パネルディスカッション形式のセミナー (例2) FPによるがんになったときにかかる費用、健康保 険適用の範囲などについてのセミナー	実施体制：講演者2名、サポートスタッフ2~3名 対象：松戸市民 場所：松戸市民活動センター等会議室、地域集会所等
四 半期 2回	ワークショッ プ	(例1) がん予防のために明日からできることを考える ※生活習慣を改めよう (例2) がんと言われたらどんな治療を受けたいのか考え よう グループでまとめたものを発表する	実施体制：ファシリテーター2~3名 対象：松戸市民 場所：松戸市民活動センター等会議室、地域集会所等
四 半期 1回	会報誌発行	HP更新は随時行う、セミナー参加者やワークショップ参加 者 に向けて会報誌を郵送 公共施設やスーパーなどへの設置等も働きかける	実施体制：事務局5名程度

※PDCAのサイクルを回し、より効果の高い方法があれば随時修正を行う

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

初年度の1回のセミナーでの集客は20名を目標とする。(年間40名)

初年度の1回のワークショップでの集客は10名を目標とする。(年間40名)

※集客の方法は公共施設・スーパーや飲食店へのポスターやチラシ設置を実施。

※ 現時点での2012年の集客は上記の1.5倍をそれぞれ目標とする。

会報誌を4半期に1回定期発行し、必要に応じて臨時発行する。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

2年間の継続した活動を価値あるものとし、資金面では共感頂いた、セミナー参加者や企業様からの会費によって自走できる組織を目指します。(ワークショップやセミナーは引き続き開催します)

また、定期的にワークショップやセミナーに参加された方が、他者(イベントに参加していない人に)にどのように情報を発信しているのか、自身のがんに対しての取り組みの継続状況などを調査し、発信の形ではなく効果にこだわり運営をしていく。

事業の予算計画書

[収入]

申請者	自己資金	金額	積算内訳
			80,000
	自己資金合計 (a)	80,000	
市	助成金申請額 (b)	100,000	
	収入合計 (c) (a + b)	180,000	

※単位：円

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1事業あたり 10万円以内

[支出]

交付対象経費	会場使用料	30,000	@2500円×12回
	スピーカー報償費	20,000	@5000円×2回×2人
	委託料 (HP等作成費用)	30,000	
	賃借料	20,000	ビデオカメラ (セミナー実施時利用)
	配布物等消耗品費	20,000	
	通信費 (切手代等)	30,000	@200円×40人 (会報1回目) 以降40名ずつ対象増加
	対象となる経費合計額 (d)	150,000	
その他	飲食費 (会場での飲み物)	10,000	100円×100人分 (年間)
	スタッフや参加者の交通費	20,000	延べ約20人分
	事業費 (f) (d + e)	180,000	

※単位：円

事業計画書

事業名	「宇宙の約束」上映と山元加津子氏講演会
団体名	「4分の1の奇跡」上映実行委員会

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。

現代人は様々な生きづらさを抱えている。たとえば、いじめ、暴力、不和などである。これらの生きづらさの原因は、隣近所、地域の交流、関わり合いがうすくなったことである。人との関わり合いが薄くなったことにより、自分や他人の命の尊厳や、個々人の間に「違いがあつて当たり前」ということが、肌感覚で分からなくなっているのである。

このような環境で、人の自尊感情が育ちにくくなっていることから、いろいろな犯罪が発生しているのであり、これは社会的損失である。

地域のつながりが薄くなったことにより、これらの問題が生じており、このような地域のつながりを深めることこそが、現代の課題である。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。

違うものを排除するのではなく、違いへの興味関心、意見交換、意思疎通ができれば、お互いに助けあい、前述の問題は解決し、誰もが生きることが楽しい、嬉しいという地域社会になる。

このドキュメンタリー映画や講演会、交流・学習会を通して、老若男女だれもが、自分のそして他人の尊厳に心から感じ入り、安心して生きいきと楽しく暮らしている地域にしたい。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

2011年4月24日(日)午後 ドキュメンタリー映画「^{そら}宇宙の^{やくそく}約束」上映と山元加津子氏講演会
その後の交流・学習会。

いのちと向き合い続ける、石川県の特別支援学校教諭 山元加津子さんは、小学校の教科書にも載った「きいちゃんのおくりもの」という実話物語の著者である。学校教諭であり、土曜日曜は全国講演で、みんなが大切な存在なのだということを、優しい語り口で、熱く語る。松戸市で初めて、2010年5月29日(土)小金市民センターホールで実施し、131名の参加と感動を呼んだドキュメンタリー映画「4分の1の奇跡」の主人公である。

2011年4月24日(日)は、その山元加津子氏講演会と、「4分の1の奇跡」の言わばシリーズ的存在のドキュメンタリー映画「^{そら}宇宙の^{やくそく}約束」を実施することで、参加した人は、命の不思議さ、「生きるとは何か。」「死とは何か。」生かされている命に、魂を揺さぶられる。そして、忘れそうになっていた大切なことを思い出し、勇気を得る。人とつながりたくなる。当日も交流することが出来るように企画する。そして、その後も交流・学習会や様々な形でつながりを深める機会を、楽しく作っていく。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	2011年4月24日（日） 「宇宙の約束」上映と山元加津子氏 講演会。	市民会館 会議室301
7月～9月	その後の交流・学習会。 「4分の1の奇跡」、「宇宙の約束」 上映会。	各地 市民センターなどにて、上映だけでは なく、交流会を充実することで、人間理解と 助け合いの輪を作り、関わり合う。
10月～12月	その後の交流・学習会。	
1月～3月	その後の交流・学習会。	

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

2011年4月24日（日）ドキュメンタリー映画「宇宙の約束」上映と山元加津子氏講演会

目標人数： 参加者 100人

その後の交流・学習会等・・・のべ参加者 100人

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

映画上映や、交流会、学習会、その他様々な形で、ひとりひとりが大切な存在なのだということに気づく機会を多く作る。そして、松戸市に住んで良かったと思える、住みよい地域社会づくりとして、関わり合い、助け合いが生まれるように、人と人のつながりを深める機会を作る。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	チケット収入 5/29 上映会の繰り越し金	100,000円 57,741円	@100人×1回×1000円
	自己資金合計 (a)	157,741円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	257,741円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	山元加津子氏講演会謝礼金	50,000円	謝礼金3万円、交通費2万円
	印刷製本費	15,000円	
	会場使用料	15,000円	
	機材貸借料	3,000円	
	テープ貸借料	100,000円	
	保育委託料	20,000円	
	交流・学習会にかかる費用	10,000円	
	消耗品費	22,741円	
	通信費	5,000円	
	保険料	2,000円	
	対象となる経費合計額 (d)	242,741円	

その他	スタッフ飲食費用	15,000円	
	その他経費合計額(e)		
事業費(f)(d+e)		257,741円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

事業名	障害のある人の理解を深める事業
団体名	特定非営利活動法人運転免許取得支援センター

★貴団体が申請する事業について、お伺いします。

1. どのような地域課題を解決したいのか、その現状や背景などについても含めて記載してください。
松戸市内の障害のある人は約1万9千人。障害のある人は「同じ地域の住民」として、自立した生活を営む必要がある。しかし、障害のある人の雇用促進や収入アップへの取り組みが施行される中で、市内の一般市民や企業は、障害のある人の日常や福祉作業所があることさえ、知らない人が多い。当団体の活動や当団体の関係各所を通じて、「障害のある人の社会参画」に焦点をあてた印刷物を作り、市民や企業に障害のある人の理解を深めたい。

2. それらの課題を解決することで、どのような地域にしたいのかを記載してください。
障害のある人がどのような日常を送っているのか、障害とはどういうものなのか、ということをもっと理解してもらわなければ、相互の助け合いにはつながっていかない。理解や関心をもってもらうきっかけを作り、それぞれができること（ボランティア、街中での障害のある人への声かけ、バリアフリーの店舗づくり、福祉作業所の自主生産品の買い上げ等）を考えてもらうきっかけを作ることで、「共生」の街づくりへの一助とする。

3. どのような地域課題の解決につながるのかが、分かるように事業内容を記載してください。

・事業内容

「障害のある人の社会参画」に焦点を当てた冊子（印刷物）を制作。市民活動サポートセンター、市内の図書館、病院の受付、待合室、市内企業のCSR室への送付などを行うことで、上記2.に記載の普及・啓蒙を行う。

・想定スケジュール（事業内容について、具体的な取り組みを下記のとおり記載してください）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月～6月	印刷物制作の企画会議によるコンセプトづくり、原稿依頼者、写真提供者、取材場所などの確定及び一部実施	当団体本所（千葉県松戸市）、支所（東京都2支所、ちよだオフィス）ほか
7月～9月	原稿制作、取材、写真撮影、ページレイアウト組み、校正等	当団体本所（千葉県松戸市）、支所（東京都2支所、ちよだオフィス）、取材先、制作会社
10月～12月	印刷、配布先リストの確定、郵送またはお届け。アンケート等同封。当団体ホームページに案内等を掲載。また福祉専門雑誌・サイトに掲載	当団体本所（千葉県松戸市）、支所（東京都2支所、ちよだオフィス）、制作会社
1月～3月	感想等のアンケートや当団体ホームページに反響あれば集計。反省会及び報告書の作成。次年度の検討	当団体本所（千葉県松戸市）、支所（東京都2支所、ちよだオフィス）ほか

4. 事業に取り組む上での達成目標を記載してください

※事業目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載してください。

- ・できるだけ多くの人の目にふれるように、冊子についての広報を当団体及び関係各所より積極的に行う
- ・印刷物 16 ページ 200 部の制作内容を市民、企業が福祉に関心をもってもらえるように質の高い制作物を目指す
- ・制作した冊子を印刷物だけに留まらず、PDF にしてホームページにも掲載したり、各所にデータ配信するなどをして、印刷部数だけでなくその倍の効果を目指す
- ・印刷物や PDF などを見た市民や企業の人達が障害のある人たちに対しての理解を深め、それぞれの立場からできる支援をしていく「相互助け合い」の街づくりを目指す。

5. 助成金終了後、どのような活動に取り組むのかを記載してください。

- ・当団体が（任意団体時を含め9年）従来取り組んできた「障害のある人が自立していくことを目的に」行っている現場で必要な支援活動「福祉作業所に通う利用者のための収入アップ」「障害のある人のための運転免許取得支援、自動車、その環境整備」は、障害のある人の社会参画にかかわる活動であり、これからも必要とされる支援です。より充実をさせていきます。
- ・今回の助成をいただくことで、市内のより多くの人に障害のある人の理解を深めてもらい、ボランティア希望者や企業の CSR などコーディネートや橋渡しを行い、市内の障害のある人の自立支援に向けて活動をしていきます。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
		寄付金	90,000 円
	自己資金	103,000 円	
	自己資金合計 (a)	190,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	293,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	原稿謝礼	30,000 円	6 原稿×5,000
	撮影	40,000 円	2 箇所×20,000
	交通費 (カメラマン・ライター)	8,000 円	2,000 円×2 人×2 日
	写真使用料	20,000 円	10,000×2 (表紙・裏表紙)
	デザイン制作費	60,000 円	12 ページ×5,000
	版下	15,000 円	
	印刷 (送料込み)	120,000 円	
	対象となる経費合計額 (d)	293,000 円	

その他	会議お茶代	0円	当団体各人自己負担
	校正	0円	8,000円×12ページ 96,000円相当 当団体内でスキルあるスタッフ対応
	その他経費合計額 (e)	0円	
事業費 (f) (d+e)		293,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。